

新しくなった 「避難情報」

しっかり理解して 的確な避難行動を！

近年、全国各地で頻発する自然災害。市町村は災害の発生が差し迫った場合に「避難情報」を出して住民に避難を促します。令和3年5月、住民が危険度を直感的に理解し、よりの確な避難行動が取れるように、「避難情報」が改善されました。

具体的行動が分かる 表現に改善

警戒レベル5の「災害発生情報」は取るべき行動が分かりづらかったため、「緊急安全確保」に変更。すでに災害が発生し、避難場所等への移動がかえって危険な場合には、ただちに安全な場所で命を守る行動を取るよう促す。

「避難情報」の主な改善点



※内閣府・消防庁「新たな避難情報に関するポスター・チラシ」より抜粋

「避難勧告」が廃止

警戒レベル4に「避難指示」と「避難勧告」の二つがあり分かりづらかったため、「避難勧告」を廃止して「避難指示」に一本化。これまでの「避難勧告」のタイミングで「避難指示」を発令。



新しくなった警戒レベルの内容

警戒レベルは、災害発生の危険度が高くなるほど数字が大きくなります。それぞれの段階でどのような行動を取ればいいのか確認しましょう。

5 緊急安全確保

命を守るための最善の行動を
すでに災害が発生・切迫している状況。命を守る最善の行動を取る。

4 避難指示

対象地域住民の全員が危険な場所から避難
対象地域で危険な場所にいる人は全員速やかに避難。

3 高齢者等避難

高齢者や要介護者等が危険な場所から避難
高齢者や障がいのある人とその支援者で危険な場所にいる人は安全な場所へ避難。土砂災害や急激な水位上昇の恐れがある地域の人も避難が強く望まれる。それ以外の人もいつでも避難できるように準備。

2 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)

ハザードマップなどで避難行動を確認
災害発生に対する注意が高まってきた段階。ハザードマップで危険のある区域や避難場所・避難経路、避難のタイミングを再確認。

1 早期注意情報 (気象庁)

災害への心構えを高める
災害発生の危険性はまだ低い段階だが、最新の防災気象情報などに留意し災害への心構えを高める。

いざというときに安全に避難行動ができるように、普段からお住まいの地域の災害リスクや避難経路などを、ハザードマップで確認しておきましょう。

国土交通省の「ハザードマップポータルサイト」でさまざまなハザードマップを調べることができます。

ハザードマップポータル

検索

<https://disaportal.gsi.go.jp/>

